

【ひだまり保育園】

設置者：セキスイハイム東海株式会社

従業員数（男女比）：501名（376：125）

主な事業：住宅の販売・設計・施工、分譲マンション事業、保険事業

（１）運営の概要

保育所の場所	〒435-0011 静岡県浜松市東区国吉町 339-2 JR 天竜川駅より車で5分 弊社浜松支社、浜松展示場より車で5分		
運営方式	委託（委託事業者：株式会社キャリア・ン）		
定員	12名（従業員枠：7名、地域枠：5名） 0歳児：5名、1・2歳児：7名		
児童対象年齢	0歳児～2歳児		
保育時間	（通常保育）平日、土日祝祭日 8：00～19：00 （一時保育）平日、土日祝祭日 8：00～19：00 （延長保育）平日、土日祝祭日 19：00～20：00		
利用料金	女性社員：（月極保育料）15,000円 （一時保育料）11時間 1,000円、8時間 750円、5時間 500円 （共通：延長）50円/30分 男性社員・地域枠：（月極保育料）34,300円 （一時保育料）11時間 2,000円、8時間 1,500円、 5時間 1,000円 （共通：延長）100円/30分		
共同設置・共同利用の有無	関連会社7社と共同利用		
職員体制	園長1名、保育士6名、サポート保育士3名（保育士比率100%） 栄養士1名、調理士2名 事務長1名、事務員1名 嘱託医1名		
保育室面積	42.6㎡		
整備（設置）費用 見込でも可	助成費用 見込でも可	約1,640万円 （建物増改築費用、外構工事費用、 備品代含む）	約870万円
年間運営費用 見込でも可	年間助成費用 見込でも可	約3,000万円	約2,800万円

（２）設置までの流れ

設置までの検討期間	平成25年11月～平成28年6月
整備費申請年月日	平成28年6月28日
運営費申請年月日	平成28年8月27日
整備費採択年月日	平成28年9月5日

運営費採択年月日	平成 29 年 2 月 20 日
工事期間	平成 28 年 9 月～平成 28 年 11 月
開設年月日	平成 28 年 12 月 2 日

(3) 設置のきっかけ・背景・理由

数年前より優秀な女性社員（インテリアコーディネーター等の有資格者や専門の知識等を持った社員）が、産休・育休明けに保育園が決まらず退社せざるを得ない事例があり、その離職防止策として社内保育所の設置を検討。また、社内保育所があることで、社員がより安心して将来に亘りより長く働くことができ、より優秀な人材の採用ができるのではないかと考え検討を始めました。

(4) 設置までのプロセス

社内における意思決定のプロセス

上記(3)の理由により、3年前より運営委託会社に社内保育所の設置方法や運営費等の相談をしてきました。また、社内でのニーズ調査を数回実施し、希望者の把握を行い検討を重ねました。その後、設置場所や施設の規模・定員数等の相談をしていく中で、今回の企業主導型保育事業の助成金の情報を運営委託会社に教えていただき、認可並みの助成金が受けられることを知り、より負担が少なく設置が可能ということで決定しました。

従業員のニーズの把握や利用者の見積りについて（地域枠の設定・規模の検討を含む）

社内でのニーズ調査を数回行いましたが、設置当初は従業員だけでは園児の人数が少なかった為、1年くらいかけて徐々に増えればと考えました。しかし、今回の制度では地域枠や他企業枠の設定が可能でしたので地域枠を設定することにし、設置場所町内の自治会に積極的に声をかけ、自治会定例会での説明や回覧板での案内を行い、地域枠での希望者を募りました。

土地、場所の確保について

運営委託会社と何度も設置場所や施設の規模について検討を重ねました。まずは従業員が利用しやすいところ、そして地域貢献も念頭に入れていたので待機児童の多そうな場所を分析し、何よりもお子様の保育環境（安全、地域性、公園やお散歩コースの充実性など）を考え、いくつかの候補地の中から決定しました。

設置方式の選択について

単独設置ですが、関連会社（7社）の社員がいつでも利用できるよう、関連会社と利用枠契約を締結しています。現在、関連会社の従業員2名が利用しています。

自治体との連携について

市役所の保育課（本部）には事前に設置の挨拶に伺い、企業主導型保育事業や施設の説明、弊社が申請を行う地域枠の保育認定方法等について打合せをし、待機児童への当園施設の紹介をお願いしました。また、区役所窓口にも挨拶に伺い、同じく待機児童への当園施設の紹介を依頼しました。その結果、5名の利用希望者より問い合わせがあり、2017年3月現在2名が入園しています。また、区役所には毎月1日現在の入園状況を報告しています。更に、同町内からは3名の問い合わせがあり、2017年3月現在1名が入園しています。

保育士の確保方策について

この数年で有資格者の確保は非常に厳しくなりました。(年間採用実績：平成20年22名、平成28年5名)
小規模施設ですとやはり即戦力がほしいので、中途採用が中心。当社では以下のように確保に努めています。

1. 通年で募集し、少々多くても採用する

保育士同士のネットワークを活かした紹介、ハローワーク、求人誌、自社HP、養成校への紹介要請など、あらゆる手段で募集をしていますが、特に最近はスマホで仕事を探す方も多いので、自治体の公式情報サイト他ネット媒体の利用に力を入れています。パフォーマンスレポートを見ながら、こまめに求人票の内容や広告費用を変更しています。

2. マンパワーを重視する

小規模であることと、事業所内保育施設の特性上入園児の増減が激しい施設なので、それに対応するために、非常勤を多めに採用しています。確かに常勤の方が人数的には少なくは済みますが、小規模ゆえに子ども達を取り巻く環境が固定化してしまったり(固定化の弊害:子どもの捉え方が偏る。虐待につながる。)行事やイベントなどを行う時に子ども達に経験させてあげることが限られてしまいます。人がいないからこれしかできないと諦めるのではなく、経験させたいことは十分にさせたい。小さな施設だからこそ、いざという時のマンパワーを充実させておくことがポイントかと思えます。

3. シニアを積極的に採用

土日祝日や長時間開園している施設では、どうしても夕方以降と土日祝日の保育士の確保に苦労します。そのような日時に当社では、シニアの方が活躍してくれています。特に夕方は、お昼寝から起きて、おやつを食べて、お迎えを待つママが恋しい時間帯。そこを甘やかしてくれる絶対的な存在であるシニアの先生方が対応することによって、子ども達にとって非常に安定した環境になっていると実感しています。同じく給食担当も土日に稼働します。やはり70代の調理員が栄養士を支えています。当施設では、20代から70代までの幅広い年齢層で、子ども達を見守っています。

4. 幼稚園教諭免許保持者を採用して育成する

保育施設においては、幼稚園教諭免許のみの保持者は無資格者扱いとなってしまいますが、『幼稚園教諭免許状を有する者における保育士資格取得特例(平成31年度末まで)』を利用して、仕事をしながら保育士資格が取得できるように応援しています。約1ヶ月間の特例講習の受講期間中は、受講料の負担または有給にするなど、会社全体で援助します。既存の有資格者が確保できない時代なので、長期的に人材を育成していく必要もあると思います。

5. サポート保育士制度の導入

事業所内保育施設では、曜日によって預かるお子さまの人数が急に増えたり、入園児の年齢が偏ったり、保育士の希望休がたまたま重なってしまう場合があります。そのような時にスポットで勤務してくれる保育士のチームを作っておくと、突発的な事態に対応できます。サポート保育士は、子育て中だけどたまには資格を活かして働きたいという方や、定年で退職したけれど仕事があれば負担のない程度に働きたいとか、平日は他の仕事に就いているけれど、土日祝日の空き時間を利用して保育士の仕事をしたいという方々が活躍しています。

上記のほか、特に留意した事項や工夫・苦心した事項 等

・保育に関してはまったくの素人でしたので、分からないことが多々あり、その都度内閣府や運営委託会社

に相談をさせていただき進めてきました。特に、制度の助成要領等の言葉の意味を理解するのに大変苦労しました。

- ・今までの経験上、事業所内保育施設は入園児数が安定しないという難しさがありました。同じ施設でも、たった1名しかいない年度もあれば、25名以上のお子さまがいる年度もありました。それは、連動して保育士の確保や、運営費の負担にも影響しますので、この企業主導型保育事業で、地域のお子さまの受け入れができるのは非常に画期的な試みだと感じました。しかし、なにぶん初めてのことでしたので、どのように地域の方にこの制度と施設の良さを理解して頂くか？ということは非常に思案しました。そこで、行ったことは2つ。1つは媒体を使っての告知。2つ目は、地域の方々にも施設を開放した内覧会の開催です。媒体を使っての告知は、新聞4紙による取材、テレビ局3社による特集、フリーペーパー1誌。そして地元の子育て支援NPO法人とIT広告会社による取材など。助成が決まり、開園準備、開園まで話題を途切れさせることなく継続的に情報を発信し、地域への認知度を上げていくように工夫しました。有難いことに注目の新制度の利用施設ということで取材の依頼がかなりありましたので、時期に合わせて、発信する内容を変えながら対応していきました。そのうえで、施設の内覧会を致しました。当日は保育士や栄養士を配置し、保護者の相談に乗ったり、園庭で子ども達と遊んだり、給食の試食会をしたりして、園の雰囲気や目指している保育を何となく伝えられるように努めました。そのおかげで認知度も高まり、開園時から地域枠のお子さまを受け入れることができたと思っています。(平成29年3月末、開園4ヶ月を以て地域枠園児は満員)

(5) 保育施設の運営について

保育施設の特徴、取り組んでいる保育内容

1. 保育施設の特徴

0~2歳児対象の小規模園のため、一人ひとりの育ちと個性に合わせ、じっくりと対応できるのが一番の魅力かと思います。閉園時の防犯対策のために、セキュリティ会社との契約をし、安全を守っています。保護者の負担にならないように、園の指定購入品もなく、お昼寝用の布団も園で準備。登降園時も荷物を保育士が受け渡しをし、保護者とは玄関で申し送りをするというシンプルな形をとっています。

2. 保育内容

・丁寧

低年齢児の小規模園なので異年齢保育の中で、まずは日々の生活を丁寧に送ることを大切にしています。保育方針は、『自分で考え、自分で決め、自分で行動する』小さいからといって何でもやってあげるのではなく、自分でできるようになるための方法を子ども達に根気強く伝えていきます。自分でできた！という小さな経験をたくさんすることにより、子ども達の意欲を育みます。そのために、子ども達の意欲が育つための環境を整備することが保育士の一番の役割だと考えます。

また、一人ひとりのお子さまの様子を毎日個別ノートに記録し、全保育士で共有しています。子ども達に小さな違和感が認められた時に遡って確認できるように、そして、成長著しい時期の子ども達の姿をこまめに記録しておくことで、チャンスを逃さない保育をするために必要なものです。

・食も保育

体の基礎をしっかりと作る時期なので、食べることの楽しみと喜びを、実体験を通して伝えていきます。自分達で育てた野菜を収穫して給食で食べたり、鰹節を実際に削って匂いを嗅いだり、食べる経験をしたり。献立には毎月行事食を1~3回入れ、栄養士も実際に子ども達が食べている様子を見たり、子ども達の前で

大きなミートローフを切り分けたりして、積極的に保育に携わっています。小さなお子さまですので、毎月の献立配布時には『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』に準じ、食材確認リストを保護者にお渡ししていますが、それに加え、保育士は子ども達が新たに食べられた食材を連絡ノートに都度記載し、栄養士が直接保護者に指導することもあります。

・地域と共存

開園前に地域とのコミュニケーションができていたことで、日々の園運営に役立っていると感じます。

「今日はどの子がいるんだ？」と毎朝挨拶に来てくれるおじいちゃん。お散歩に行く道中で必ず立ち止まって見る金魚の水槽を、子ども達がよく見えるようにと洗ってくれたお兄さん。お散歩中にいつも声をかけてくれるおばさん。ママが残業して遅くなった時、お散歩に出かけようとしたら「ママはまだか？えらいなあ。また一緒に遊ぼうな。」と言って、ガレージの電気をつけてくれたおじさん。「頂き物だけおやつにどうぞ。」とリンゴをくれたお母さん。地域の方の日々の見守りは、大地震や災害等の緊急対応できっと活かされるもの。大切にしたい関係です。

・安心・安全を一番に

保育園の最低限にして最大のミッションは、お子さまを安全に笑顔で保護者のもとに返すことだと考えます。そのために月1回の職員会議では、危機管理マニュアルや防災等訓練の内容を随時見直すようにしています。また、入園間もない時期は、お子さまの園での様子がわかるように保育中のお写真を撮り、降園時に見せながら申し送りをするなど、保護者の不安が解消できるような対応を心掛けています。

3. 加算

- ・ 預かりサービス加算（余裕活用型）
- ・ 延長保育加算...保育時間 8：00～19：00（11時間）、延長保育 19：00～20：00
- ・ 非正規労働者受入推進加算

従業員と地域の利用者の声

（従業員）

・ 園児が少人数の為、目が行き届いているので非常に安心しています。保育士の皆さんが、いつも優しく、時には厳しく接してくださっているのが大変良い影響を受けています。トイレトレーニングや食事時のマナーなども徐々に身につけてきているのがわかります。家庭で教えきれない事を先生やお友達と一緒に楽しくてくれているようなので、毎日の成長が楽しみです。園での様子を写真や動画に残して報告をしてくださったりもするので、親としては大変うれしいです。

・ 季節の行事では、工作物を作ったり園児みんなで楽しく過ごしている様子がわかり、集団生活の良さを感じています。お友達や先生との接し方も日々変化し、成長を感じる毎日です。お迎え時に1日の報告を兼ねたお話の中で、いろいろな相談や雑談の中からいろんな事を発見できる保育士さんとのおしゃべりも楽しみのひとつになっています。他のお子さんとの「行ってくるね～」「バイバ～イ」のハイタッチも毎日楽しいです。子供同士の関わりもどんどん増えているのがうれしいです。

・ 保育園があるから、普通の勤務時間で普通に働けているので大変助かっています。栄養士の方もいてお昼やおやつなどを出してくださるので、それも助かります。また、ただ遊ぶだけではなく、季節にあわせた作品

も作ったりしているのが益々いいなと感じています。

(地域利用者)

- ・育休後、年度途中での復職を希望していましたが、認可保育園、認可外保育園ともに定員がいっぱいで、復職できない状態だったところ、企業が従業員のために設置する保育施設を、地域住民や他企業にも開放してくださるということで、たいへんありがたく利用させていただくことにしました。入所に際しては、設置企業への信頼がありましたので不安はまったくありませんでしたし、入所後も保育の内容や設備、設置企業の方との連絡など、十分満足しています。
- ・特に地方では、認可保育園以外の選択肢が非常に少なく、働きたい人も預け先がなく働けない、もしくは短時間の勤務しかできないなど、ほんとうに必要な方が保育を受けられない状態です。少しでも多くの選択肢があり、利用者が選べる環境にあることが、働きやすい社会ではないかと思いますので、今後もこのような保育所が増えることを期待します。
- ・スタッフの方はとても親切に対応して下さりとても助かっております。入園当初から今も泣いてしまうこともあります。子供も段々慣れてきているようです。毎日おいしい給食を園で作ってくださって、子供もおかわりするくらい大好きです。園での様子も細かく教えてくださるので、安心して預けさせて頂いております。
- ・一時預かりで月に3~4回利用させてもらっています。職場からは少し遠いですが、土日も利用できるのでとても助かっています。先生方もとても優しく、迎えに行くと一日の様子を教えてくれるので安心です。設備も整っていて部屋も明るく、外に出て遊ぶスペースもあり子供も楽しく遊んでいるようです。

(6) 現在の課題と今後の取り組み予定

現在の課題は、従業員が利用したい際に常に利用できるよう定員の空きを確保し、地域枠との人数のバランスをとりながら入園児を増やしていくことです。今回は静岡県西部地区での設置ですが、順調に運営ができれば将来的には県中部・東部地区への設置も検討したいと考えています。また、今後は他の企業の従業員が利用できる他企業枠の受入れも実現できればと思っています。

(7) 従業員への子育て支援を進めようとしている他社へのメッセージ

実際に開設するまでの時間は思った以上にかかりますので、早めの検討をお薦めします。また、専門知識がありどんなことでも相談できる良き運営会社等に会えることが、最大のポイントではないでしょうか。

